

カレーの日について

令和8年6月24日
おひさまの森

園長 有好恵子



おひさまの森では、令和6年3月から「カレーの日」を始めています。「カレーの日って何？」について説明させていただきます。

【カレーの日が出来るまで】

その1 毎日の園開放を始めて2年以上経ちますが、利用者はあまり増えていません。その日によっては、何組か来てくださるようになりましたが、定着はしていません。ベビーマッサージ、おひなさま作り等のイベントを行なえば集まるのかな…。でも、おひさまらしくないなぁと考えていました。おひさまらしいってどんなこと？

その2 「同じ釜の飯を食う」という成句がありますが、その意味は「同じものを食べることによって、同体としての帰属意識を持つこと」とされています。確かに保育園では、子どもも大人も毎日同じ給食を食べ、そんな意識になっているように感じます。園開放で来てくれる人たちも同じものを食べ、おひさまに愛着を感じたり、また行きたいなと思ってくれたりしたらいいなと思いました。でも、給食を食べてもらうのは、現実的には難しい！！では、一緒に食べられるものって何だろう？

その3 私は、前々から『開かれた保育所になりたい』という思いを持っていました。園は、地域の中にあり、住民の方々の理解や応援の上に成り立っているものです。町内の回覧板で町内の方々に「ぜひ遊びに来てください」と何度かお誘いしましたが、どうも訪問はハードルが高いようです。地域の方々と交流できる方法はないかなあと思案していました。

それらのことをいろいろ考えて悶々としていた頃に、あるひらめきが…

以前、岩内町に行った時に帰厚院というお寺に出会いました。帰厚院では毎月1回カレーの日をやっていて、今年で70数回になります。そこでは『カレーライスを誰かれ構わず一緒に食べて高齢者も大人も子どもも同じ時間を過ごすことで、そのお互いの存在意義を問う。また、人口減少・お寺離れの中、町を活気づけ、元気で頑張っている姿

を皆に示していく』という趣旨のようでした。古いお寺なのですが、掃除が行き届き、中にはお供え物が溢れていました。小学生の書いた新聞が貼られ、塾の計算コンクールの会場にもなり、人の集うお寺になっていると感じました。



その帰厚院のカレーの日のことを思い出したのです。「これだ！」と思い、職員に相談すると、みんな笑顔になり「いいですね」「楽しそう！」「やってみたい！」との声が返ってきました。こんな感じで「カレーの日」が始まることとなりました。

【実施について】

○カレーは誰でも食べに来てOKです！

小学生（卒園児もそうではない人も）、園児の保護者や祖父母、その知り合いなど。

近隣にお住いの方々…とにかく誰でもいいのです！！

○年長児を中心にカレー作りや配膳を行います。テーブルセッティングや飾りつけなどの会場作りも年長が頑張ります。

○園児はいつもの生活で、給食にカレーが提供されるというイメージです。

※保護者で来てくださる方は、「今日、カレーを食べに来ます」と朝の受け入れの保育士にお伝えください。

カレーの日は何日？ 覚えやすい日にちって？

ちょうど良い語呂合わせはないかと探しましたが、ピンとくる日はありません。昨年3月に初めてカレーの日を実施してみて、カレーを食べるみんなの顔がにこにこだったので、そこからにこにこ→にこにご？→2525？→ということで25日に決定しました（笑）



日にち：毎月25日

時間：11:30～

25日が土・日・祝日の場合は前倒して、24日、23日と変更して行います。

12:30までにお入りください。（13:00終了予定）

※帰厚院についてはぜひネット検索してみてください

※過去に来てくださった方が「ただで食べるのは気が引ける」とおっしゃっていました。昨年から、そういう方のために絵本募金箱を設置しましたが、原則は無料です！

Ⅵ.社会とのつながり



「のぼり」をあげて
カレーの日をアピール！

カレーの日

年長がカレーを作り、園児と来園する方々が一緒にカレーを食べる日です。毎月25日と決めています。園開放に来る親子・園児のおじいちゃんおばあちゃん、地域住民などさまざまな方が来てくださいます。

お客さんが来たら、「いらっしゃいませ」とあいさつをして、名簿に名前を書いてもらうのが受付の仕事です。初めは戸惑っていましたが、今は堂々と言えるようになりました。帰る時には自分たちで考えて、「ありがとうございました」「またきてください」と言っています。そんな気持ちを抱えていることに驚きました。

また、カレー作りも回を重ねるごとに上達し、半年たった今では、手順も覚え指示されなくても、次の工程がわかるようになりました。そして、配膳やお茶を配るのも自ら動こうとしています。ご近所に自分たちで作ったカレーの券を届けに行き、皆さんに来てもらえるよう呼びかける姿も見られました。

自園の地域は、ひとり暮らしの高齢者が多いので、月に1回でも食事を共にすることで生活に潤いや楽しみが出来たり、異世代間交流、地域活性化の一助になりたいと思っています。小学校の夏休みや冬休みには、卒園生も来てくれます。卒園して会えなくなった同士が、この日に再会を喜び合う姿が見るのも喜びです。

じゃがいも、とくだよ！



め、いたく
なってきた？



まだ だいじょうぶ！

こげないようにね

オッケー



【自ら片付けてくれた人】
おもたいなあ



おいしい*たのしい*カレーの日！！



おきゃくさんのぶんも！



がんばろう

Ⅶ. まとめ

おひさまでは、毎日の暮らしを大切に考えています。生活の中にはいろいろな仕事があり、それを大事にしたいという思いであえて手間のかかる「梅干し」「豆腐」「米」などを作るのを楽しんでいます。それによってたくさんの学びがあるばかりではなく、心がとても豊かになり、満たされた気持ちになるからです。活動の中では、とても頑張って働く人と、ちょっとしか働かない人がいるけれど、それでも最後にみんなで美味しいものを食べることで、「みんなでやり遂げた」という気持ちを共有できるのもいいなと思っています。

栄養は、体を作るため、そして心も育てるためにも必要不可欠です。おひさまの給食やおやつは、調理スタッフが子どもたちのために、一つひとつ手間をかけ、愛情を込めて作っています。体と心の両面から支えてくれています。

おひさまの「食育」は、そんな調理の仕事が大好きな調理スタッフと、どんなことも楽しんでやってくれる保育者たち、皆に支えられて実現している心温まる保育活動だと思っています。